

「大老の松二世」の植樹

2013年3月27日に「大老の松二世」を2本植樹しました。

大老の松の命をつなぐことができました。

また 虹の松原では樹齡がはっきりわかる松はありませんが、大老の松二世は何年、何十年、何百年経とうと樹齡がわかりません。



平成 25 年 3 月 14 日

各位

虹の松原七不思議の会
高大OB・虹のいちろく会
ホワイトブルー虹

命を繋ぐ「大老の松」二世の植樹について

拝啓

初春の候、皆様お健やかに過ごしの事とお喜び申し上げます。

「大老の松」が松くい虫の被害を受け、平成21年12月16日に伐採されて、3年経ちました。伐採前に採取した「大老の松」の松かさから種子を取り出し、佐賀県林業試験場で発芽させ、苗木を育てて戴いていました。

この度、立派な苗木が育ちましたので、「大老の松」の切り株付近に二世の松を植樹したいと思います。「大老の松」は年輪を数えると293歳でしたので、命が繋がるとすると植樹する幼松は296歳ということになります。

「大老の松」は江戸時代から今に至るまで、虹の松原で起こった一揆の様子、諏訪神社の祭りに詣でる大勢の人々、戦争の時代など長い歴史を見降ろしていました。雷に打たれて燃え上がってもたくましく生き延びてきました。

空洞があると予想されましたが、年輪の美しさに皆さんはとても感激されたことでしょう。最後まで毅然として生きてきた証のように思いました。

虹の松原を大切にすることは一本一本の松を大切にすることです。寺沢志摩の守の7本の松を大切にすることで虹の松原が守られてきましたように――。

下記のように 「大老の松」二世の植樹をしますので、ご協力をお願いいたします。

敬具

記

日 時 平成25年3月27日（水曜日） 10時から30分程度

場 所 「大老の松」切り株付近（麻生茶屋の西隣り）

なお、当日は佐賀森林管理署、佐賀県林業試験場のご指導のもとで、参加された方々によって植樹します。

連絡先 唐津市松南町152-1

佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センター

（旧 佐賀大学海浜台地生物環境研究センター）

虹の松原七不思議の会 田中 明

（携帯電話番号 090-4586-1156）

「大老の松」二世の植樹までの経緯

元気な頃の「大老の松」

1998年



2000年



2007年10月20日



2007年11月3日



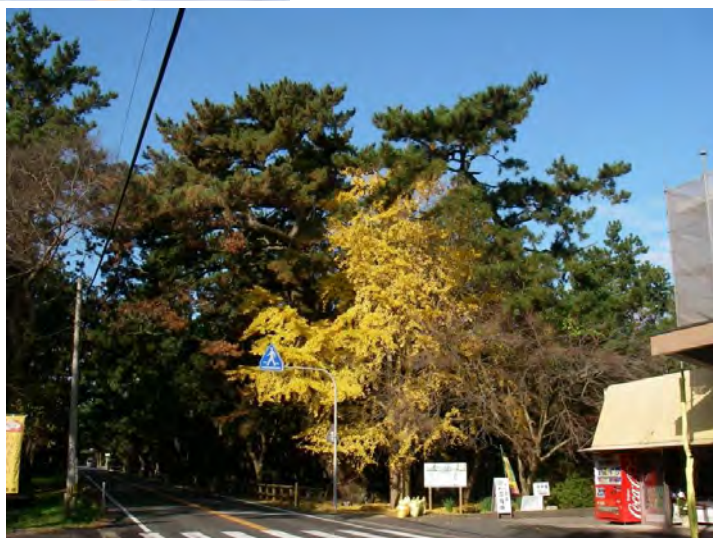
2008年頃から 松くい虫被害の兆候がみられるようになった。

樹齢400年と言われる大老の松が松食い虫の被害により枯れ始め、切り倒される予定であった。しかし松食い虫の被害にしては、枯れの程度が進まないことに佐賀森林管理署の職員が気付いた。松枝を採取し専門家にマツノザイセンチュウの数を調べて貰ったところ、数が少ないことがわかった。また松食い虫の被害を受けた場合は傷から松ヤニが滲出しないが、大老の松からは松ヤニが滲出している。これらのことから、大老の松はすぐに枯れることはないと判断され再度治療が行われた。多くの人々の大老の松に対する「もっと長生きを」との願いが叶い、すぐに切り倒されることはなくなった。大老の松が頑張っている様子も伝わってくる。

2008年10月26日



2008年12月2日



2008年12月6日 許可を得て百花園の皆さんに松に登り松かさ採取して貰い、種子を採取した。



2008年12月から2009年2月にかけて 佐賀森林管理署によって「大老の松」を守るための努力がなされた
マツザイセンチュウ防除剤による治療



2009年2月 枯れた枝を除去



2009年12月16日 大老の松伐採



2009年12月18日 佐賀大学海浜台地生物環境研究センターで播種、発芽試験
グロースキャビネット内室温25℃

2010年1月1日 発芽

発芽試験後に種子を佐賀県林業試験場にお渡し、二世の松の育苗をお願いしました。

1月1日



1月18日



佐賀県林業試験場で育苗（２０１０年１月より 大老の松二世の育苗）

１００本ほどの元気な幼苗を受け取りました。このうちの特に元気な３本を植樹します。
残りの松は、今後、松原再生・保全のために使用されます。

２０１１年６月２７日育苗の様子



２０１３年３月１日 幼苗受け取り



謝辞

「大老の松」が松くい虫被害を受けましたが、佐賀森林管理署は懸命に治療されました。

佐賀県林業試験場には「大老の松」二世を３年間にわたり育てていただきました。

麻生茶屋の皆さんは「大老の松」が元気に回復するように、日照が続くと水をかけておられました。

多くの方々が 「大老の松」が元気になることを祈っていました。

子ども達は伐採前日に「大老の松」にお別れをしました。

私達は親、子ども、孫へと命が繋がれています。「大老の松」も同じように命が繋がれます。
これから 末永く何百年も生き続けて貰いたと思います。

多くの方々のご尽力によって「大老の松」の二世を植樹することができることになりました。
心より お礼申し上げます。（田中 明）

大老の松の年輪について

年輪には大老の松が経験した293年間の天候が記録されている。江戸時代は寒冷な天候のために年輪の幅が狭い。1990年頃からは地球温暖化の影響であろうか次第に幅が広がっている。幹回りが大きくなると年輪の幅が狭くなると言われているが、大老の松では逆に広くなり、健やかに成長していたことが伺える。松くい虫の被害がなければもっとと長生きできたと思うと残念である。

生長が悪いのは冷夏の時である。近年では1980年と1993年、両年とも異常低温、日照不足であった。1980年頃の年輪の幅は特に狭く、3、4年間はその傾向が続いた。

大老の松は1965年に落雷があり幅が狭くなっている。虹の松原一揆が起った明和八年頃の天候はそれ以前の異常な冷夏ほどではないが、あまり良い天候ではなかったようである。

